



キャッチフレーズ

**「プリオ」を核にコンパクトで
活気溢れるまちづくり**

事業実施の背景

昭和14年、東洋一といわれる豊川海軍工廠建設が起点となり、周辺地域の開発が進み発展した街。昭和20年終戦の年に、海軍工廠が被爆、壊滅的打撃を受けた。

戦後の復興に大いなる役割を果たしたのが、当地域の商業者たち。商売を通じて街の復興に寄与するとともに、早くから一致団結して発展をつづけ、昭和30年代には、共同店舗「プラサすわ」を設置。その後も、商業の近代化、合理化を図り、コンパクトシティを目指す市の開発計画に呼応、協働して大型共同商業施設「プリオ」を建設、今なお、更なる街の発展、活性化に向けて邁進している。

事業の概要

【大型商業施設プリオ、プリオへの経営参加】

昭和49年「プラサすわ」の老朽化に伴い、商店街の核となる施設の建設を目指し、市街地再開発事業に積極的に関与、平成元年10月に商業ビル「プリオ」を完成。「プリオ」の運営会社豊川市開発ビル(株)に出資し、商店街として経営にも参加。さらに平成13年10月「プリオ」北側に「プリオ」を建設。「諏訪地区」は、市役所、郵便局、図書館などの公共施設とプリオを中心とした商店街が存在する都市機能が集約された行政・商業の中心エリアである。今年度、プリオ5階に市の子育て支援センターも設置された。これらの取組みにより、住・職・学・遊が集積し、街なか居住、歩いて暮らせる街、まさにコンパクトシティの実現に大いに貢献してきている。



【地域の賑わいづくり、活性化に向けた取組み】

すわに食べにおいてん祭、星空観測会の実施

平成5年から毎年10月、屋台でうどんや焼きそば、フランクフルトなどを無料提供、フリーマーケットやパフォーマンスが繰り広げられるイベントを実施。4~5,000人を集客、地域に密着した商店街をアピールするとともに、賑わいを創出。また、平成18年から、子どもたちに、街なかでも星空観測ができることを知ってもらい、宇宙への興味や関心を高めてもらおうとプリオ屋上に天体望遠鏡を設置、観測会を実施。第1回には500人が親子連れで参加した。さらに、2回目はゲームなど子供向けのイベントを充実、1,500人が参加。



事業の効果

- ・ 積年の発展に向けた活動により、当商店街エリアは地域の商業中心地として発展。
- ・ 食べにおいてん祭や星空観測会の実施により、地域に商店街の認知度を高めるとともに、地域の連携強化や街への地域住民の愛着を喚起している。

事業の課題

- ・ プリオ以外の集客力向上、商店街の認知度向上、魅力づくり。

商店街の基本データ

名称：豊川市諏訪商店街振興組合

理事長 柴田 勉

所在地：〒442-0068

豊川市諏訪3丁目127

電話：0533-86-8292

構成員：約45名

